

令和8年第2回定例
夕張市議会会議録
令和8年6月11日(木曜日)
午前10時30分開議

◎議事日程

第 1 一般質問

◎出席議員 (8名)

徳 谷 康 憲 君
荒 井 周 司 君
工 藤 政 則 君
君 島 孝 夫 君
櫻 井 暁 君
千 葉 勝 君
高 間 澄 子 君
大 山 修 二 君

◎欠席議員 (0名)

午前10時30分 開議

●議長 大山修二君 これより、令和8年第2回定例夕張市議会第2日目の会議を開きます。

●議長 大山修二君 本日の出席議員は8名全員であります。

●議長 大山修二君 本日の会議録署名議員は、
会議規則第125条の規定により、
高間議員
徳谷議員
を指名いたします。

●議長 大山修二君 ここで、事務局長から諸般の報告をいたします。

●事務局長 堀 靖樹君 報告いたします。

本定例市議会に出席を求めた説明員の一覧につきましては、さきに報告のとおりであります。

以上で報告を終わります。

「別紙」

市長 厚 谷 司 君

教育長 有 村 宏 紀 君

◎市長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

副市長兼財政課長事務取扱

芝 木 誠 二 君

総務企画課長 板 垣 克 巳 君

地域振興課長 瀧 口 健 太 君

税務課長 秋 山 俊 輔 君

建設課長 佐 藤 浩 一 君

土木課長 阿 部 充 雅 君

上下水道課長 矢久保 六 玄 君

市民課長 外 崎 伸 一 君

保健福祉課長 鈴 木 茂 徳 君

生活福祉課長兼福祉事務所長

平 塚 浩 一 君

消防長 松 倉 暢 宏 君

消防署長 鈴 木 剛 士 君

◎教育委員会教育長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

教育課長 押野見 正 浩 君

◎選挙管理委員会委員長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 板 垣 克 巳 君

◎農業委員会会長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 清 水 文 憲 君

◎監査委員の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 堀 靖 樹 君

◎本議会の書記の職・氏名

事務局長 堀 靖 樹 君

書記 志 茂 隆 君

書記 増 井 菜々実 君

書記 大 井 友 彦 君

●議長 大山修二君 本日の日程は、お手元に配

付しているプリントのとおりであります。

それでは、直ちに日程に従って会議を進行いたします。

●議長 大山修二君 日程第1、一般質問を行います。

一般質問の通告は5名5件であります。

質問の順序は、千葉議員、徳谷議員、工藤議員、君島議員、櫻井議員であります。

それでは、千葉議員の質問を許します。

千葉議員。

●千葉 勝君（登壇） 千葉勝です。

通告に従い、1件4点質問します。

夕張市は、2012年3月に都市計画法に基づく夕張市総合戦略を策定し、令和2年に人口減少の加速化、建物、公共施設の老朽化、災害の危険性といったまちの状況変化を踏まえ、総合戦略の改定を行い、対象期間を令和6年度までの5年間を令和8年度までの7年間に変更しました。

また、夕張市まちづくりマスタープラン等の計画では、20年後を見据えた将来都市構造として、改めて市内各地区を将来的に一定程度の人口が残る拠点地区、地域再編地区、生産地区の三つの地区に分け、まちづくりの将来的な方向性を示し、拠点地区である若菜地区には、市立診療所が建設され、清水沢地区には、拠点複合施設「りすた」、丘の上こども園が建設され、今後、市庁舎と公園の建設が予定されている。

一方、拠点地区である紅葉山地区は、JR、夕鉄バス、市外線デマンドバスの公共交通の利便性もよく、商業施設、医療施設、金融機関、宿泊施設もあり、暮らしやすい生活環境だと考えるが、この間、民間賃貸住宅の建設もあったが、市営住宅の建設や道の駅メロードのトイレや駐車場等の整備が進んでいなく、紅葉山地区への居住誘導は一向に進んでいなく、人口減少が進んでいる。

市長はコラムで「将来に向けて見えている課題を克服し、夕張市を持続可能なまちとするために、コ

ンパクトシティに取組を着実に進めていく」と述べています。

今年度は、市長任期の最終年度で、これまで行ってきた様々な施設を形あるものにし、その成果を収穫し、市民の皆様にお返しする年だと考えます。

令和8年度で再生振替特例債の返済は終了するが、国や道からの財政支援が縮小される見通しの中、本市が進めてきたコンパクトシティの取組がこれからも重要と考えます。

そこで、コンパクトシティの取組について4点お伺いいたします。

最初に、第2期地方版総合戦略の持続可能なまちづくりの具体的施策のコンパクトシティの推進で、持続可能な地域社会の構築に向けてコンパクトの取組をさらに推進していくとの方針で、この間、まちづくりを推進したかと考えます。

この総合戦略の対象期間が令和8年度までで、今年度が最終年度と認識しています。

そこで、市長任期8年で進めてきた地方版総合戦略のコンパクトなまちづくりの進捗状況と課題について伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 ただいまの千葉議員のコンパクトなまちづくりの進捗状況と課題に関するご質問にお答えをいたします。

第2期夕張市地方版総合戦略の持続可能なまちづくりの施策でございます。

コンパクトシティの推進の進捗状況ですが、夕張市まちづくりマスタープランを平成24年に策定した以降、少子高齢化の進展や人口の想定を上回る速さでの減少、JR石勝線夕張支線廃線による地域公共交通の体系転換など、状況の変化に合わせるため、令和3年3月にこれを改定し、さらに整合する形で居住機能や都市機能の立地誘導など、持続的でコンパクトなまちづくりを進めていくための指針となります。夕張市立地適正化計画を策定するなど、計画の見直しや策定を進めてきたところでございます。

これら計画を実現するため実施して参りました施

策といたしましては、清水沢地区においては、「拠点複合施設「りすた」」、そして、「ゆうばり丘の上こども園」、若菜地区におきましては、「夕張市立診療所」を整備し、都市機能の誘導を図ることで、拠点地区の生活利便性を向上させて参りました。

現在は、令和12年度の供用開始を目指しまして、庁舎を清水沢地区に移転すべく取り組んでいるところでございます。

また、居住に関しましては、新築や中古住宅の取得に対する補助を実施するなど居住誘導に少ないながらも効果を上げているところではございますが、居住誘導区域への人の誘導をどう活発化させて持続的に拠点地区の人口密度を維持していくのかということが課題と感じているところでございます。

●議長 大山修二君 再質問ありますか。

千葉議員。

●千葉 勝君 答弁で、居住に関しては、新築や中古住宅の取得に対して補助をして、一定程度効果を上げていますけれども、居住誘導地区への人の誘導をどう活発化させて持続的に拠点地区の人口密度を維持していくことが課題であるという答弁だったと思いますけれども、そこで新築や中古住宅の取得補助を実施したことで、居住誘導に一定の効果を上げているとの答弁ですが、そこで過去3年間の取得補助の実績件数がお分かりであれば教えていただきたいのですけれども。

●議長 大山修二君 建設課長。

●建設課長 佐藤 浩一君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

新築及び中古住宅取得に対する補助の実績でございますが、令和5年度は新築が1軒、中古が5軒、令和6年度は新築0軒、中古が2軒、令和7年度は新築が0軒、中古が5軒となっております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 拠点地区は、将来的に一定程度の人口が残る地区に市内の生活や交流を支える都市機

能、居住機能の誘導を図り、生活利便性の高い拠点を形成するとマスタープランに示されています。

令和2年の夕張市地方人口ビジョンによる社人研の推計では、平成27年が8,843人、令和12年には4,603人、令和22年には2,882人、令和27年には2,253人で、平成27年時点の半数以下になると推計されております。

5月29日に北海道から2025年の国勢調査の速報値が発表され、夕張市は全道で減少率が最大の23.4%、全国でも4番目の多さで人口が5,618人で2020年から1,716人も減少し、社人研の推計よりも160人減少していると考えます。

人口減少が進めば、働き手が減り、税収が減少し、医療、教育、公共交通の維持が難しくなると考えます。

地域で安心して暮らし続ける社会をどう維持していくかが課題だと考えます。

そのためにもコンパクトなまちづくりが重要と考えます。

そこで、今回北海道から示されました国勢調査速報値の人口減少の要因について、どのようにお考えなのかお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

令和7年国勢調査速報値におきましては、人口は5,618人となり、前回調査時から23.4%の減少となったことは報道のとおりでございます。

国勢調査結果の詳細な分析については、現時点では困難でございますが、国の公表数値であります各年1月1日現在の住民基本台帳人口における人口動態によりますと、令和2年から令和7年における人口減少数は1,662人となっております。

その要因といたしましては、自然減によるものが925人で減少数の約55%を占めておりまして、また、社会減によるものが737人で、こちらは45%を占めているという状況でございます。

少子高齢化の進展と転出超過が続いている状

況であると、そのように受け止めております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 少子高齢化と転出超過が人口減少の要因ではないかと考えるとの答弁だったかと思えます。

誰もが安心して暮らせる環境づくりの戦略で、民間賃貸住宅建設への補助、新築や中古住宅の取得に対する補助、子育て世代への経済的負担の軽減等の施策をこの間行ってきたと認識しております。

今後、人口を増やす取組の少子化対策や転出を抑制する施策の取組を今後ともお願いしたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

次に、2番目のコンパクトなまちづくりの中で、紅葉山地区は交通の利便性を生かし、交通機能の強化、充実を図りながら、商業、医療、子育て支援、居住機能の集積を図り、暮らしやすい生活環境を形成する施策でまちづくりを行っていくと示されております。

紅葉山地区は、交通の利便性や商業施設、医療施設、金融機関、福祉施設、宿泊施設もあり、暮らしやすい環境と考えるし、市庁舎建設を紅葉山地区にとの声もあったかと思えます。

少子高齢化による生産年齢の人口減少という夕張の厳しい状況の中、紅葉山地区においても平成31年に1,004人が令和8年には813人となり、191人も人口減少が進んでいます。

そこで紅葉山地区を今後どのようなまちにしようと市長は考えているのかお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の紅葉山地区の今後に関するご質問にお答えをいたします。

ただいま議員のほうからもご発言の中でございました夕張市まちづくりマスタープランでは、紅葉山地区の方向性を交通利便性を生かし、交流機能の強化充実を図りながら商業、医療、子育て支援、居住機能の集積を図り、暮らしやすい生活環境を形成するとしてございます。

紅葉山地区は、国道274号と452号の結節点でもございまして、駅やインターチェンジを有するなど交通利便性が高いことが地区の特徴であると考えてございます。

また、交通のほかにも商業、医療、郵便局など都市機能が集積しておりまして、暮らしの利便性も高い地区でございます。

このようなことから交通の要衝として交流人口の拡大施策を核として進めていく地区と考えております。

人口減少対策につきましては、紅葉山地区に限らず全市的な問題でありますことから、市全体を見て今後の人口減少でありますとか、年齢構成などを考慮しながら施策を実施していくことが必要であると考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 今後は紅葉山地区を交通の要衝として交流人口の拡大の施策を核として進めていくというようなご答弁だったと思えますけれども、立地適正化計画で紅葉山地区も居住誘導地区に指定されていると考えます。

居住誘導地区は、若者世代、子育て世代の居住誘導を図ることによって、区域内の人口密度を維持していくことを目指していると考えます。

現在、紅葉山地区に市営住宅は10棟104戸ありますが、入居可能な住宅は1棟24戸しかなく、個人住宅建設用の宅地の整備も進んでいなく、紅葉山地区に居住移転を希望しても空き住宅がない状況と考えます。

令和4年3月に作成された夕張市コンパクトシティ構想で、紅葉山地区の拠点化の方策として道の駅としての機能充実、魅力強化と再編整備、そして子育て世代への住宅確保が挙げられております。

そこで、紅葉山地区への居住誘導を図るために、特に子育て世代向けの住宅確保の取組についてのお考えをお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 ただいまの千葉議員の再質

問にお答えをいたします。

夕張市コンパクトシティ構想の子育て世代向けの住宅確保でございますが、これは紅葉山地区だけに特化した方策ではなく、若菜地区、清水沢地区にも共通する方策としてございます。

清水沢や紅葉山などを定めた地域要件内の物件取得に対しまして、新築住宅取得費補助においては、市民が新築する場合は100万円、転入者が新築する場合は150万円のほかに、子どもが1人で40万円、子どもが2人以上で80万円を加算することとしております。

また、中古住宅取得費補助においては、市民が取得する場合には限度額50万円、転入者が取得する場合には限度額75万円のほかに、子どもがいる場合は25万円の加算をして、子育て世代向けの住宅確保支援や転入、定住促進を図っているところでございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 いろいろな補助をして全市的に清水沢、若菜、紅葉山地区に子育て世代の住宅の補助をして家を建てていただきたいという、そういうようなお考えだったと思いますけれども、このまま紅葉山地区に、例えば市営住宅も建てなく、個人住宅の建てる場所もない中で、市営住宅の建設については一定程度の理解はしますけれども、このまま何もしていないで紅葉山地区の人口密度の維持をしていくことと地域コミュニティを守っていくことが困難かと私は考えます。

そこで、人口密度の維持と地域コミュニティを守る取組を、ぜひ今後とも紅葉山地区だけではないですけれども、若菜、清水沢、そこらも含めてやっていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

次に、3番目に入ります。

人口減少が進む地区で、新規居住の抑制と拠点地区への住み替え誘導を図る地域再編地区に居住する方々に対して住民懇談会を定期的に開催するなど、住民ニーズを把握し、安心して住み続けられる施策

を検討しますと、令和5年第2回定例会の所信表明で述べております。

そこで、住民懇談会での意見要望を受け、地域再編地区に安心して住み続けられる施策を今後とも進めていく考えなのか伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 ただいまの千葉議員の地域再編地区の施策に関するご質問にお答えいたします。

夕張市まちづくりマスタープランでは、地域再編地区の方向性で、現在の居住者が安心して暮らし続けることができる居住環境の維持、確保を図るとなっております。今後とも交通の確保でありますとか、必要最低限の維持管理を行いながら居住環境を維持していくこととなります。

しかしながら、マスタープランには中長期的な視点から新たな居住の抑制や住み替える場合は、拠点地区への誘導を図るともしてございます。

このまま人口減少が進んでいけば、千葉議員のほうからもご指摘がございましたが、コミュニティなど現状を維持することすら難しくなっていくものと考えておりまして、いつからということは現段階では明言できませんが、拠点地区への誘導を進める必要があると考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 いつからとは言えませんが、今後、拠点地区への誘導を進めていく必要があるというお考えという答弁かと思います。

そこで、市庁舎が現在ある地域再編地区である本町地区は、広範囲に土砂災害警戒区域に指定されているために市庁舎を清水沢地区に移転する計画が決定され、現在、建設計画が進められています。

そこで、この土砂災害警戒区域である本町地区に居住している市民の皆様の移転誘導についてどのようなお考えなのか伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

本市が山間に市街地を形成してきたことから、土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域は本町地区に限らず、市内各所に存在しておりまして、本市は今後においても一定程度、土砂災害リスクとの共存はしていかなければならないものと考えております。

その上で、警戒区域内の人口推移を見ながら災害リスクの回避や低減施策を段階的に検討し実施していくべきものと考えてございます。

千葉議員ご指摘の移転誘導につきましては、災害リスクの回避策として最終段階の施策になるものと考えておりまして、今すぐに実施するものとは考えておりません。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 本町地区というか、市内各所に土砂災害警戒区域があるということですが、特にこの本町地区は市役所が移転するということがありますので、住民は結構移転も考えている、そういう方もいるのかなと私は考えますけれども、先ほど市長のほうから、移転誘導は災害リスクの回避として最終段階の施策と考えている、今すぐ実施するものではないとの答弁でしたけれども、災害はいつ起こるか分からないことを考えますと、最終段階の施策かもしれませんが、住んでいる住民が今後とも安全で安心して暮らせる施策を要望したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次、4番目に移らせていただきます。

夕張市の市営住宅の管理戸数であります、2026年5月時点で2,901戸で入居戸数は1,020戸で入居率35.2%と聞いております。

1棟当たりの入居戸数が一、二戸にとどまるような共同住宅が市内各地にあります。このような状況では、行政サービスの供給や生活インフラ、交通インフラの整備などの面でも非効率やコスト上昇の原因の一つと考えます。

そこで、地域再編地区の市営住宅から拠点地区への住み替え誘導をどのように行っていくのか、お伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の拠点地区への住み替え誘導に関するご質問にお答えいたします。

先ほどの答弁と同様の部分でございますけれども、現在は地域再編地区の市営住宅におきましても、現在の居住者が安心して暮らし続けることができる居住環境の維持確保を図ることが基本の方向性となっておりまして、必要最低限の維持管理を行いながら居住環境を維持しているところでございます。

一方で、千葉議員のほうからご指摘がございました市全体の市営住宅の入居率でございますが、こちらは35%程度ということでございまして、中でも地域再編地区では入居率が20%を下回る団地も見られる状況でありますことから、管理戸数を適正化していくことが管理の効率化でありますとか、コストの削減、それ以上にコミュニティの維持において有効である、そのことも認識しているところでございます。

しかしながら、現在は居住誘導区域内に地域再編地区から受け入れるのに十分な空き戸数があるという状況ではございません。住み替え誘導をいつから、どこから始めるのか、移転先にどれほどの戸数が必要かなど、人口減少の推移や居住者の年齢構成などを考慮しながらしっかりと見極める必要があると考えてございます。

また、移転となりますと高齢者の方には本当に大きなご負担になりますので、居住者のご理解を得ることが何よりも大切だと考えており、まずはきちんとプランニングをするところから進めていくべきものと考えてございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 移転となれば高齢者に大きなご負担ですから、居住者のご理解を得ることが大切だと考えているという答弁だったかと思います。

市営住宅の入居率は、いただいた資料によりますと35.2%で、1桁のところもあるように示されておりました。

真谷地地区内での集約を行ってから、他の地区では地区内での集約を行っていないと認識しております。

そこで、真谷地地区で行った地区内での集約の取組をどのように検証し、課題は何か。また、今後、拠点地区内への移転ができないのであれば、地区内集約も行うべきかと私は考えますけれども、地区内集約の考え方について伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

平成25年から26年で実施した真谷地地区の団地内集約でございますが、こちらは入居者の方々や北海道大学の協力がありまして実現したものであり、このことによって浄化槽3か所廃止にするなど維持管理コストの減でありますとか、分散居住から集約居住となったことによるコミュニティの維持などの効果があったものと認識をしております。

課題でございますが、団地内の集約であったとしても、やはり入居者のご同意を得ることの難しさであった、そのように考えております。

地域再編地区の地区内集約につきましては、市営住宅の管理戸数の適正化という観点から見ますとすれば、一定程度の入居率を確保でき、維持管理コストも抑制できるという効果がございますが、コンパクトシティの推進という観点から見ますと、その効果は一時的なものでありまして、近い将来に再び入居率の低下、入居者のさらなる高齢化、住棟の老朽化による修繕費の増大という問題が生じてくるものと考えておりまして、中長期的視点で見ますと地域再編地区の地区内集約は必ずしも効果的な施策であるとは考えておりません。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 ただいま中長期的には地域再編地区の地区内集約は必ずしも効果的な施策であるとは考えておりませんとの答弁でしたが、市営住宅の1棟当たりの入居戸数が一、二戸にとどまるような共同

住宅が市内各地にあると考えます。

この入居戸数一、二戸を解消していくことも重要かと考えますので、解消に向けた取組をお願いしたいと思います。

コンパクトなまちづくりは人口減少や財政負担の増大を見据え、居住、医療、福祉、商業、交通、公共交通などの都市機能を一定エリアに集約し、持続可能で暮らしやすい都市機能に転換していくことで、将来の市民負担を抑えることにつながると考えます。

夕張市の人口減少が加速していっている中で、市の重要なライフラインであります水道事業の経営を安定かつ健全にしていくには、水道料金の改定も検討しなければと考えるが、将来の市民負担を抑えるには施策であるコンパクトなまちづくりが重要かと考えます。

地域再編地区は、このまま人口減少が進めばコミュニティなどを維持していくことが難しくなっていくと考えます。

いつからとは現段階では明言できないが、拠点地区への誘導を進める必要があると考えるとの答弁でしたので、コンパクトなまちづくりの拠点地区への誘導を今後とも進めていくことを要望して、質問を終わります。

●議長 大山修二君 以上で、千葉議員の質問を終わります。

次に、徳谷議員の質問を許します。

徳谷議員。

●徳谷康憲君（登壇） 徳谷康憲です。

通告に従いまして、1件3点の質問させていただきます。

これからの夕張の観光について。

夕張市は2007年の財政破綻を契機として、従来大型施設依存型の観光政策から地域資源を生かした持続可能でコンパクトなまちづくりと一体化した方向へと転換してきました。

さらに2026年度末には再生振替特例債の償還が見込まれており、現在は財政再建の段階から、より自律的で持続可能な地域運営を目指す新たな局面へ移

行しつつあります。

以上を踏まえて、以下の質問をお聞きします。

1点目、振替特例債償還後の新たな観光戦略について。

夕張市は、振替特例債の償還後における持続可能な地域経済の発展に向けて、今後の観光戦略についてどのような方針を持っているのかお伺いします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 徳谷議員の再生振替特例債償還後の新たな観光戦略に関するご質問にお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、本市の観光事業は、過去の反省を踏まえ、大型施設に頼るものではなく、既存の地域資源を生かす方針の下、財政再生の取組の範囲内で行って参りました。

その上で、市といたしましては、再生振替特例債償還後の観光、これを考える機会といたしまして、観光事業者を中心とした意見交換を昨年度からこれまでに4回実施しているところでございます。

この意見交換は、観光戦略を立てること自体を目的としたものではございませんが、魅力ある地域資源の確認でありますとか、持続可能な観光事業を行っていくために必要なことなどについて話をしております。

市といたしましては、実際に事業をしている方々の意見をお聞きすることが重要であると考えてございますので、今後も開催が予定されております意見交換を通じて観光戦略を立てることの是非も含めた市の観光の在り方について、検討を深めて参ります。

現在のところ、具体的方針というところは確立しているものではございませんが、そうしたことも視野に含めて、ただいまご答弁申し上げましたような検討を進めているというところでございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

徳谷議員。

●徳谷康憲君 ただいまの答弁では、昨年度から現在までに4度の意見交換会を実施されているとのことでした。

そこでお伺いしたいのですが、これまでの意見交換会において、参加者からどのような意見や要望、課題認識が示されているのでしょうか。お伺いします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 徳谷議員の再質問にお答えいたします。

ただいまご質問いただきました意見交換会の内容でございますけれども、参加された市内事業者の中には、お互いの事業内容をその詳細を知らないという方もいらっしゃいましたので、それぞれご自身の事業を紹介するところから始まります。

また、グルーブワークの形式で夕張の地域資源の魅力、いわゆる推しを考え、共有すること、そうしたことを行っております。

その後は、考えた推しを生かすためにはどのような観光プログラムや商品が考えられるかということについてお話をした後に、それらをどのように実践し、売り出していか、さらには、実践するためにはどのような運営体制が求められるのかといった内容を第4回までに話し合っただけのところでございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

徳谷議員。

●徳谷康憲君 分かりました。引き続き、意見交換会のほうをよろしくお願いしたいと思います。

続きまして、2点目の質問に移らせていただきます。

人手不足の中、市として観光事業を推進する体制について。

現在の夕張市においては、人口減少や少子高齢化の進行に伴い、行政をはじめ、観光関連事業者においても人手不足が大きな課題となっております。

そのような状況の中で、市として今後の観光振興を着実に推進していくためにどのような体制づくりを進めていく考えなのかお伺いします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 徳谷議員の観光事業を推進する体制づくりに関するご質問にお答えいたします。

さきに答弁をいたしました意見交換の中では、人口減少などにより人的資源をはじめとする各資源が限られていく中で、その資源を最大限に生かす方法でありますとか、組織、体制を考えたほうがよいのではないかといった意見が参加者からもあったところでございまして、まさに議員ご指摘の体制づくりという点に関心が集まっております。

具体的には、観光事業者間での情報共有に加えまして、一元的に情報を発信する体制を構築したほうがよいのではないかというご意見もありましたため、市といたしましても意見交換を踏まえながら観光事業を推進する体制づくりを後押しして参りたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
徳谷議員。

●徳谷康憲君 夕張市の観光関連団体は、それぞれが特色や強みを持ち、独自の活動を展開している一方で、団体ごとに目的や立場が異なることから観光振興に向けた方向性や意思の統一を図ることが容易ではない状況もあると認識しております。

今後、地域全体として効果的な観光振興を進めていくためには、市が中心となって関係団体の連携を促し、共通の目標に向けた調整や取りまとめを担うことが重要であると考えますが、この点について市はどのように考えているのかお伺いします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 徳谷議員の再質問にお答えいたします。

意見交換の開催でありますとか、その場で出た意見の集約などにおきましては、これまでも市が主導的な役割を担っておりまして、これからもその役割は続けて参ります。

その上で、実際に観光事業を行う体制として行政の関与が強まるということは、一般的には民間事業者の経営感覚でありますとか、発想を損なう可能性もありますので、必ずしもよい影響だけを与えるものではないと考えてございます。

そのため、先ほども答弁をいたしました、意見

交換の内容を踏まえて夕張の実情に適した体制づくりを進めて参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
徳谷議員。

●徳谷康憲君 分かりました。

続きまして、3点目の質問に移らせていただきます。
新たな観光施設の建設について。

今後の観光振興を進めていく上で、既存の観光資源の活用だけではなく、新たな観光客の誘致につながる施設などにも必要な要素であると考えます。

そこで、市として新たな観光施設の建設について検討しているのかお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 徳谷議員のご質問にお答えいたします。

検討しているのかというご質問でありますけれども、検討はしておりません。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
徳谷議員。

●徳谷康憲君 再質問はありません。

夕張市は、過去に観光関連事業への投資が財政悪化の一因となった経緯があり、その経験から大規模な施設整備に対して慎重な姿勢を取らざるを得ない面もあると理解しております。

しかしながら、その過去を単に消極的な判断につなげるのではなく、失敗の要因を十分に検証し、その教訓を今後の施策に生かしていくことが重要であると考えます。

観光を取り巻く環境や旅行者のニーズは時代とともに変化しており、将来的な観光振興や地域活性化のために必要であると判断されるのであれば、新たな観光施設の整備や観光拠点創出についても選択肢から排除することなく、夕張市の新たな魅力づくりにつながる施策を積極的に検討していただくことを期待し、私の質問を終了したいと思います。

●議長 大山修二君 ここで暫時休憩いたします。

午前11時15分 休憩

午前11時16分 再開

●議長 大山修二君 申出がありまして、徳谷議員の最後の質問は大変重要なことなので、少し答弁をさせていただきたいと申出がありましたので、これを許します。

厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 休憩をいただきましたことを、また、議長におかれましては、発言をご許可いただきましたことに感謝を申し上げたいと思います。

ただいまの徳谷議員からの質問に対しまして、新たな観光施設の建設予定はあるかというご質問でございましたので、それは考えていないということをお答えしたわけですが、その後、徳谷議員のほうから状況に応じてという内容のご発言もありまして、そうなって参りますと状況に応じて、それは市に観光施設の建設も検討すべきではないかというお申出ではないかというふうにも受け止めた部分もあります。

そのようなことから、ここは非常に大事なところでございますので、また、会議録、それから議会さんのほうではユーチューブ配信もされておりますでしょうから、そうしたことにしっかりお答えする必要があると、そのように考えましたので、お時間をいただいたところでございます。

それで、先ほど観光施設の建設については考えていないということをお答えしたところでございますけれども、まず一つは、平成19年に本市が策定いたしました財政再建計画におきまして、今後、不採算の観光事業は実施しないこととして、公園等の公共性の高い施策については、維持管理業務の委託先を見直すなど経費の削減を図るほか、市が所有する観光関連施設については、売却または指定管理者制度により委託する、売却先または委託先が定まらない施設は、原則として休廃止するとしておったところでございます。

その考え方については、現在でも踏襲をしております、今後も同様の考えで進めていくべきものと

考えるところでございます。

つきましては、徳谷議員が先ほどおっしゃられました観光施設は、状況に応じて市が建てることについてというところもございましたけれども、市いたしましては、その必要性はないと、そのように考えてございます。

一方で、私が考える夕張市の観光振興でございますが、観光事業を通しての市内経済活性化、これは大事であるというふうに捉えておりまして、その後押しをどのようにしていくかについては、事業者とも時間をかけて議論していく必要があると考えてございます。

現在、観光庁のほうも観光事業を推進するに当たりまして、いろいろな財政支援をしていただいているところでございますが、その主たる支援先というのは、DMOでありましたり、民間事業者というところに今非常に多くなってきてございます。

そうした背景も捉まえながら、今後、市の観光事業というものは、先ほど答弁をさせていただきましたように、今は市内の既存の施設をどのように活用して高めていくかというところをしっかりとやっていきたいと考えております。

お時間をいただきまして、ありがとうございます。

●議長 大山修二君 以上で、徳谷議員の質問を終わります。

次に、工藤議員の質問を許します。

工藤議員。

●工藤政則君（登壇） 工藤政則です。

通告に従い、質問させていただきます。

厚谷市長は、令和5年3月の選挙で五つの大項目と、それぞれに関連する29の具体的項目を公約に掲げ、この間、公約実現に向け市政運営をされてこられたと考えております。

これまで3年を過ぎ、いよいよ4年目最終年度にかかったところで、それぞれの市長公約の進捗状況について、市民に約束をした公約の進捗状況について2点お伺いをしたいと思います。

市長の公約の中にコンパクトシティの構想の推進、

そういったものがうたわれている中で、市長公約としてコンパクトシティ構想の中で、拠点地区である紅葉山地区について道の駅を核として広域視点での人、物、金等の流れを創出、地域内外の交流促進、地域産業の活性化を図るというふうにされておりますが、道の駅の現状の取組と今後の展開について伺いをしたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 ただいまの工藤議員の道の駅を核とした紅葉山地区の活性化等における現状の取組と今後の展開に関する質問にお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、紅葉山地区は、コンパクトシティ構想における拠点地区として紅葉山工業団地のほか、市における南の玄関口である道の駅夕張メロードがございます。

道の駅夕張メロードは、令和3年度及び令和4年度にリニューアル事業を実施し、メロン売場の改修や飲食店の新設を行いましたほか、令和5年度から毎年8月に道の駅夕張メロードフェスタを開催することで、人、物、金等の流れの創出や地域内外交流促進、地域産業の活性化に対して一定の成果があったと認識をしております。

また、今後の展開につきましては、夕張市農業協同組合が令和8年度から令和10年度を期間として定めた第14次農業振興事業3か年計画におきまして、道の駅部門のさらなる強化が明記されたことも踏まえまして、5月に開催をされました道の駅夕張メロードの運営協議会の総会でもスピード感を持って、道の駅の魅力向上等に取り組むことを確認いたしました。

引き続き、関係者と連携し、道の駅夕張メロードの魅力向上について取り組んで参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 今ほど令和5年度から毎年行っているメロードフェスタ等を開催することによって一定の成果があったというお話、また、今後については夕張市農協と連携をしながら運営協議会の中でスピード感を持って魅力向上に取り組んでいくという

ご答弁だったかなというふうに思いますけれども、市長のご答弁に対しては一定の理解はさせていただくのですが、道の駅の現状を踏まえると抜本的な対策が必要だというふうにも考えております。

例えば、道の駅周辺の未利用地の活用も含めた施設の在り方の検討、そういったことも必要ではないのかなというふうに考えております。

道の駅そのものの魅力向上も当然ですけども、周辺施設、周辺地、そういったものの利活用といったことも考えて、そういったことを検討や実現に当たって、市が主導的な役割を担っていくべきではないかというふうに考えますが、いかがでしょうか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の再質問にお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、道の駅の周辺には未利用の私有地もございますが、規模の大きな整備を行うに当たりましては、慎重な検討が必要だと考えてございます。

その上で、まずは施設内部の改善による来場者数の増加など、目の前の課題解決に一つずつ取り組んで参ります。

また、検討におけます市の役割についてでございますが、最終的な意思決定は道の駅夕張メロード運営協議会で行うものと認識ございますが、協議会という形にとらわれず、緊密な意見交換を行い、その中で市からも積極的な提案をして参りたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 大変大きな整備というものには慎重な検討が必要だということでのご答弁だったかなというふうに思いますけれども、やはりそのところは確かに運営協議会で行うものということだろうと思いますけれども、駅長は市長でありますので、その辺をしっかりとリーダーシップを持った形で進めていただきたい、考えていただきたいなというふ

うに考えます。

道の駅の周辺を含めた整備に当たっては、大変慎重な検討が必要ということでありましたけれども、他方で、市長公約の中に夕張固有の車両であるSL館の車両移設を検討すると、これも公約の中にうたわれてございます。

ほかの道の駅の事例がそのまま当てはまるものではないと、そういうことは承知の上ではありますが、この既存資源であるSL館の車両を道の駅における観光資源として活用することについて検討をされたのか、その辺を伺いたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の再質問にお答えいたします。

SL館の車両移設につきましては、先ほどのご質問の中にもございましたが、私も公約の中で車両移設を検討するということを挙げさせていただいております。

この検討でございますけれども、まず検討における大きな要素といたしまして、移設の経費が挙げられます。

複数の事業者を確認をいたしましたところ、億単位の費用が必要というお話もあったと承知をしております。

そのため、財政再生期間においては、実施が困難であるとして、移設に係る本格的な検討にまでは至らなかったところでございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 検討はされたけれども、非常に大きな費用がかかるという中で、財政再生期間においては実施が困難であるというご答弁だったかなというふうに思いますので、財政再生期間が終了した先の課題として、できればそういったことの有効活用、非常に大切な夕張の文化施設資産でもありますので、その辺のところを活用できるようなこともご検討いただければありがたいかなというふうに考えております。

それでは、次の質問に移らせていただきたいと思います。

市長は、公約として夕張再生の決意、そういったものとして、5件29点の公約を掲げ、この3年間、市政執行に努めてこられました。

令和6年第1回定例市議会の大綱質問の中で、公約の進捗状況については、市長公約を定期的に進捗管理し取りまとめを行う。また、公約の進捗状況を公表すること、市民に知っていただくのは非常に重要なことだと考えているということをおっしゃって、令和6年より市のホームページ上で進捗状況の公開をされてございます。

現在、ホームページ上では、令和7年3月現在の状況が公表されているというふうに押さえておりますけれども、そこで市長公約の現時点での進捗状況と、この3年間の受け止め、また、4年目最終年を迎えてどのようにこういった課題を仕上げていくおつもりなのか、お考えをお伺いしたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の公約の進捗状況に関するご質問にお答えいたします。

私が2期目の公約として掲げました5件29点の公約につきましては、私が1期目の間に生じていた課題を解決し、よりよい夕張を目指すべく掲げたものでございます。

この公約29項目につきましては、その解決すべき内容と発生した背景、経過などがそれぞれ異なっておりまして、全ての進捗状況について概括的に申し上げるということは難しいものであります。

しかしながら、公約全てについて着手をし、令和6年度末時点においては、一部を除き、おおむね推進中の状況となっておりまして、令和7年度において、引き続き取り組んで参ったところでございます。

最終年である令和8年度におきましては、これまで進めてきた公約をさらに推進しながら、特に財政再建後の新しい指針となる夕張市総合計画を本年度中に策定し、市民の皆様にも今後の夕張の姿をお示しすべく取り組んで参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 それぞれ状況が異なっており、全ての進捗状況について概括的に申し上げるのは難しいというご答弁だったかなと思いますけれども、その辺のところをそれぞれにおいて一步ずつ、大きく一步進んだものもあれば小さな一步、そういったものもあるのかなというふうに、私も捉まえているところではありますけれども。

公約の進捗状況においては、任期中に実現できないものも幾つかあるのではないかなというふうに考えるところなのですが、それらに対して今後どういうふうにしていくおつもりなのか、お考えをお伺いしたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の再質問にお答えしたいと思います。

工藤議員ご指摘のとおり、公約の中には任期中に具体的な成果をお示しできないものがあることも事実でございます。

先ほども質問をいただいたところでございますが、SL館の列車につきましては、経費の問題もあり、移設については、財政再生期間中において具体的な見通しを立てることが難しいと判断したところであります。

また、公約の中には、合葬墓の設置検討ということもございまして、この件に関しましては、令和6年第3回定例市議会での櫻井議員からの質問で答弁をしているところでございますが、市民のニーズでありますとか、市内寺院等への影響などを踏まえて慎重に検討しました結果、私の任期中に合葬墓を設置しないという判断をしたものもございます。

これらの課題につきましては、今後の社会情勢でありますとか、財政状況等を踏まえて対応されていくものと考えます。

一方、着手済みの公約でありましても、例えば行政執行体制確立については、近年の職員確保の困難さから職員配置状況の厳しい状況となっておりますし

て、現時点では順調に進捗しているとは言えない状況もございます。

しかしながら本年度において、少しでも課題解決できるよう、公約を進めるべく取り組んで参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 今のご答弁の中で、合葬墓については判断が難しいと、設置しないという判断をされたということで、やはりできること、できないことのめり張りというものは必要なかなというふうには、私も考えるところでございます。

そういった中では、特にこれから最終年に向かっていく中で、やはりそういったことを再検証していただいて、本当にまず最初にやらなければならないこと、長い期間をかけて考えて進めていかなければならないこと、いろいろと考えた結果、できないという判断をする、そういったことも必要なことかなと思いますので、その辺のところを十分に考えながら進めていただきたいことをお願いしたいと思います。

また、市長公約の中では、夕張メロンの将来にわたる安定生産の実現、そういった項目もございまして、

去る5月22日に札幌市中央卸売市場において開催されました夕張メロンの初競りにおきまして、2玉580万円という史上最高額での取引がなされる結果となりました。

その中では、市長も登壇をされてご挨拶も述べられていたかなというふうに記憶しておりますけれども、この金額については、メロンの生産に対する評価、そういったものに加えて、この20年間の夕張市の財政再生の取組に対する評価、こういったものも含まれているのではないかなというふうに私自身考えているところではありますが、それについてその場におられた、また、いろいろと考えておられる市長の受け止め、そういったものをお伺いしたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 ただいまの工藤議員の再質

問にお答えいたします。

市長公約の中には夕張メロンの将来にわたる安定生産の実現という項目も掲げさせていただきまして、この間におきましても農業関係団体の皆様と協議をいろいろとさせていただきながら、その時々課題に対して行政が果たすべき役割は何なのか、これは実行しなければいけないのではないかという観点に立って、できる限りの対応をして参ったところでございます。

その延長線上におきまして、本当に喜ばしいことでございますが、札幌市中央卸売市場で本年5月に開催されました初競りで2玉580万円という、いわゆる史上最高値のご評価をいただいたところでございますが、工藤議員のほうからもお話ございましたけれども、何よりやはりこれは生産者の皆様、それから関係者の皆様の献身的なご努力、これが評価されたものと、そのように認識をしてございます。

ただ一方で、私も当日壇上から、あるいは報道機関の取材を受けた際にお話をさせていただきましたけれども、やはり夕張市がこの厳しい20年の中で、私ども市民に光を照らし続けてくれた、そうした存在、これが夕張メロンであったということについても述べさせていただいたところでございます。

その上で、一部報道によりますと、落札された方からは明るい話題をつくれた旨のコメントがあったと承知をしてございまして、議員ご指摘のとおり、再生振替特例債の償還が間もなく終わる夕張市が、市民の皆様と共に取り組んできた財政再生について評価された側面もあるのではないかと認識をしております、改めまして関係者の皆様に感謝を申し上げたいと存じます。

引き続き、市民の皆様が住み続けたいと思えるまちづくりのために、少しでも公約が果たされるようしっかり取り組んで参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 ありがとうございます。

市長の言葉から生産者、また、関係者に対する評

価、そういったものをしていただきまして、私の立場からも本当に生産者の一人として市長からそういう言葉をいただけてうれしいなというふうに考えております。

本当にこのことについては、生産者の日頃の努力とその責任の大きさ、そういったものはその初競りの後、若い青年部の皆さん方の集会の中でも部長がああ数字を見たときに一番最初に思いついたことが責任の大きさを痛感するというところで、部員の全員に一斉メールでLINEを送ったということで、喜ぶということよりもやはり責任の大きさ、これはまさしく生産者もそうですけれども、この20年間の夕張の再生に向けた取組、そういったものの評価もまさしくそうなのかなと。喜ばしいということだけではなくて、これは我々が本当にこの20年取り組んでこられた方たちのことも思いながら、それを今後どういうふうにしっかりと責任を持って、これを持続可能な夕張をつくっていくのかと今、市長がご答弁されましたけれども、市民の皆さんが住み続けたいと思えるまちづくりをしっかりと進めていくということが我々にも非常に大きな課題、責任としてあるのかなというふうに私も考えるところでございます。

ですので、市長におかれましては、公約が果たされるよう取組を進めていくという言葉でしたけれども、そこの中で先ほどもありましたけれども、長い期間をかけて公約を考えていかなければならない、そういったものも多々あるのかなと。今年1年ではなかなか結論の出ないことはたくさんあるのかなと。

いよいよ総合計画の策定、本年度中に策定をする予定で今進んでいるとは思いますが、それが来年度以降、実質的に動き出すと。その辺のところにおいても、我々においても責任が非常に大きいのかなと。

その辺のことを考えた中で、この長い期間をかけた市長公約というものをどういうふうと考えていくのか、市長のお考えを伺いたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の再質問にお答え

いたします。

公約に関してご質問をいただきまして、これまでの進捗状況と、それから検討はしたけれども、その結果、なかなか困難である、あるいはしないということを決断したというお話もさせていただきました。

その上で、工藤議員のほうから各公約、いわゆるまちづくりの進め方については、短期でその結論が出るものもあれば、中長期時間をかけてやっていかなければならないものもある、そうしたものについてどう考えがあるかという再質問であるというふうに受け止めておりますけれども。

この令和9年度におきましては、現在作業が遅れておりますことは、本当におわびを申し上げますけれども、総合計画の素案策定をやっているというところでございまして、間もなく素案についてお示しできる予定でございます。

そうしますと、次にどのような作業が起こってくるかと申し上げますと、やはり令和9年度、あるいは9年度以降、これまで取り組めなかった事業でありますとか、やはりこの時期的に見て夕張が進めていかなければならない事業、そういったものをこの9年度に考えていかなければいけないという状況になります。

ですから、そうしたことからすれば、令和9年度以降のことを検討していくということについては、一人、今、例えば財政規模でありますとか、状況によって判断をするという方法もないわけではないでしょうけれども、やはりその事業をどのように、いつから、どのぐらいの規模で進めていくかということを決めていくということには、それなりの責任も伴うという認識については持っておりますので、そうした考えのもとで、令和9年度に向けての準備というものを進めていきたいというのが考えてございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 今ほど市長のほうから責任を持って9年度以降のことを考えていくというお言葉だった

かなというふうに考えております。

その辺のところ、私も重く受け止めさせていただいて、私からの質問を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

●議長 大山修二君 以上で、工藤議員の質問を終わります。

お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ、延会したいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。

したがって、本日はこれで延会することに決定いたしました。

●議長 大山修二君 本日は、これで延会いたします。

午前 11時46分 延会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

夕張市議会 議長 大山 修 二

夕張市議会 議員 高 間 澄 子

夕張市議会 議員 徳 谷 康 憲